

令和4年度 八重東小学校 研究推進計画

1 八重東小学校教育目標

「夢をはぐくみ 自ら考え学び 共に伸びる 八重東っ子の育成」

2 研究主題および主題設定の理由

(1) 研究主題

「本に親しみ 主体的に調べ 学ぶ 児童の育成」

～読書活動と図書館機能を取り入れた授業づくりを通して～

(2) 主題設定の理由

小学校学習指導要領には、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に向け、各教科等の指導に当たる配慮事項の1つとして、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を実現すること。」と示している。社会の急激な変化とともに顕在化している課題として「児童生徒の語彙力や読解力」が挙げられ、Society 5.0時代の教育の在り方として「読解力や情報活用能力」が重要になっている。その力を確実に習得させるために、「新たな価値を創造するための読書活動」を充実させることは、非常に有効であると考えられる。

GIGAスクール構想により、学校では1人1台のタブレット端末環境が整備されている。学校図書館も、情報サービスや学習支援、読書推進のあり方などについて変化が迫られている状況がある。学校図書館におけるICT活用の具体的な取組としては、図書とパソコン等の情報端末を併用した授業の実施、電子書籍の導入などによる電子図書館の取組も考えていかねばならない状況である。現在、ネット上には様々な情報が混在しており、出会った情報の正誤を確認する方法が、多数の情報フィルターを通った書籍という考え方もでき、図書館の情報センターとしての機能がさらに重要となっているとも言える。また、生き方を豊かにしたり、社会的モラルの育成・向上を図ったりするには、児童読み物、文学作品などの読書は欠かすことはできない。

本校では、平成30年度から研究の中心に「図書館教育」を据え、「本に親しむ」「目的に応じて読む」「本から学び自らの考えを深める」という3つの柱と、それらを支える「環境の整備」の柱を軸に「子供の読書習慣の形成」と「主体的・対話的で深い学び」が実現されることを目指した研究実践を行い、具体的な取組や授業改善を行ってきた。

昨年度の児童アンケートの結果では、児童の多くが「本を読むことが好き」「本を読むことは大切だ」と感じており、90%以上の児童が進んで本を読んでいると自覚している。また、95%の児童が「授業に関係ある資料を進んで使うことができている」と回答しており、授業中に図書資料を活用して課題解決等を行うことが身に付きつつあるといえる。諸学力調査における質問である、「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表することに取り組んでいる」「課題を解決するために、進んで情報を集めたり整理したりすること」「授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報が集めることができるか考えている」を意識して学習をしている児童が、県内平均より大幅に多いという結果になっている。

継続している課題としては、収集した情報を比較・分類・精査したり、図書資料等を根拠として自分の考えを説明したりする力、自分の考えを持つ批評読みや根拠として図書資料等を示す等、資料を効果的に活用する力が不十分なことである。

このような状況を踏まえ、研究主題を引き続き「本に親しみ 主体的に調べ 学ぶ児童の育成～読書活動と図書館機能を取り入れた授業づくりを通して～」と設定し、次の2点に取り組む。

1点目は様々な状況下においても読書活動の充実を一層図り、児童の読書に親しむ姿をより高めるとともに読書の質的な向上を図ること、2点目は図書館機能の「学習・情報センター」を生かした研究実践をより充実させ、図書資料を根拠として自分の考えを明確に持ち、他者を意識して分かりやすく説明するために複数の資料を吟味し、選択した資料を活用できる児童を育成することである。

3 研究仮説

- 1 読書環境を整備し、子供達が楽しく取り組めるような読書活動を計画的・継続的に行えば、進んで本に親しむ子供が育つであろう。
- 2 図書館の「学習・情報センター」としての機能を生かした授業づくりをすれば、課題解決に必要な情報を、図書資料から読み取り取捨選択して活用する力や、図書資料を基に論理的に整理し自分の言葉で豊かに表現する力が育つであろう。

＜目指す子供の姿＞

「本に親しむ」

- ◎ 目的に応じて、図書資料を選んで読む。 ○ 読書が好きで、自ら進んで読書をする。

「主体的に調べ、学ぶ」

- ◎ 分かったことや自分の考えを、根拠を基に自分の言葉で表現する。
- 課題解決に必要な情報を、図書資料を活用して調べ、取捨選択して活用する。
- 自ら課題を見つけ、進んで解決しようとする。○課題解決に向け友達と協働しようとする。
- 課題解決に必要な図書資料は何かを自ら考え、探したり見つけたりしようとする。

【本校で身に付けさせたい資質・能力】

具体的な児童の姿	
知識・技能 情報活用能力	○各教科で身に付けた知識や技能を他の教科や活動に積極的に生かすことができる。 ○課題意識をもって、多面的に情報を収集し、目的に応じて、収集した情報を取捨選択し有効に活用することができる。
課題発見・解決能力	○学習の中から新たな課題を設定したり、生活の中から課題を設定したりすることができる。 ○自他の考えを比較・分類・関連付けて整理し、自分の考えを吟味することができる。 ○課題解決に向けての見通しをもち、試行錯誤を重ねながら、様々な方法を用いて、粘り強く取り組むことができる
コミュニケーション能力 (協働性)	○課題解決に向けて積極的に話し合い、よりよい解決方法を生み出そうとする。 ○自分の考えとの共通点や相違点を見付け、話し手の意図をつかみながら、受容的に聴くことができる。 ○目的や意図に応じて、考えたことや伝えたいことを的確に話したり、相手に合わせて臨機応変に工夫しながら話したりすることができる
自ら取り組む力 (主体性)	○問題・疑問を見つれたり気づいたりしたら、進んで自ら解決したり、他者に働きかけ協働して解決したりしようすることができる。 ○学んだことを生かして、自分の生き方をよりよく変えたり、学校や社会の中で工夫して生かそうと考えたりすることができる
自他を理解する力	○自分・他者の強みや弱みを理解し、尊重し合って互いに高まろうとしている。 ○進んで他者と関わり、よりよい社会をめざすための自分の生き方を考えようとしている。
ふるさとを愛する心 (郷土愛)	○自分の生まれ育った地域への理解を深め、愛着心をもって地域に貢献・積極的に関わろうとする。

4 研究内容

(1) 研究仮説①について

- 児童会委員会・読み聞かせグループ・教員等による多様な読み聞かせ
- 八重東小学校読書百選の選定（R4年度版を作成）と目標達成の取組
- 年間を通した読書貯金カードの取組（低学年 200冊，中学年 100冊，高学年 70冊）
- 読書活動に係る行事の工夫（子ども読書の日，古典の日，図書祭）
- 読書習慣定着の取組（読書貯金，家庭での読書習慣，PTA 教養委員会主催の親子読書）
- 児童が読書をしたくなる環境整備（北広島町図書館・読み聞かせグループとの連携等）

(2) 研究仮説②について

- 図書館機能（学習・情報センター）を活用した単元構成・授業づくり（課題発見解決学習）の工夫
 - ・ 様々な課題を解決するために必要な資料は何かを、児童自らが考え、考えを補足する資料として取捨選択したり、収集した情報を整理・分析・比較・精査したりする授業の工夫。
 - ・ 学びを深める話し合い方等、児童の学習スキルを高める工夫。
 - ・ 図書資料を根拠として考えを説明するなど、児童の情報発信力を高める工夫。
- 国語科の授業における並行読書の取組
- GIGA スクール構想を生かした多様な資料の収集・活用
- 図書館が学習・情報センターとしての機能するための環境整備
- 各教科と図書館教育の関連表作成

5 検証の視点と方法

	検証方法	達成目標	検証時期
仮説 1	児童意識調査	「本を読むことは好きですか」等の項目についての肯定的な回答率の上昇	5月・9月・2月
	児童実態調査	本を読む児童の冊数・時間等の向上 等	5月・9月・2月
	保護者意識調査	「子供は家庭で読書している」等の項目についての肯定的な回答率の上昇	7月・12月
仮説 2	学期末単元テスト	各教科平均通過率の向上(80%以上) 等	学期末
	児童意識調査	「必要な資料を自分で選択したり, 図書資料を根拠として自分の考えを書いたりできましたか」等の項目について肯定的な回答率の上昇 等	5月・9月・2月
		「授業では, 情報を比べたり仲間分けしたり関係を見つめたりして何が分かるかを考えている」等の項目について肯定的な回答率の上昇 等	
教職員意識調査	「資料を選択したり, 情報を比較・分類・精査したりする学習活動や情報をもとに自分の考えを話し合う学習活動ができています」等の項目について肯定的な回答率の上昇 等	5月・9月・2月	

6 研究主題に基づく「学びの変革」推進の具体的な計画

- (1) 図書館機能を活用した教科等の新たな単元開発
 - ⇒全体計画・単元配列表・単元計画の見直し(つけたい資質・能力など教科間の関連を明示)(他教科・生活等と関連付けた学ぶ意欲の持てる単元のゴールの設定等)
 - (児童の実態に応じた多様な「選択肢」と「自己決定の場」を意識した単元計画)
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業力向上に係る授業研究
 - ⇒年間を通して全学級で授業研究(指導案検討・模擬授業等・研究協議)ー外部講師等の活用
 - 単元構想シート(「本質的な問い」「単元を貫く問い」「個別の問い」)を活用した授業づくり
 - 広島版「学びの変革」授業参観シート(八重東小版)を活用した校内研修の活性化
 - デジタル機器を活用した授業づくり(思考の促進・対話の充実・表現の増加)
- (2) 授業力向上を目指した日常的な授業参観・交流
 - ⇒年間を通して期間を定めて実施(学び合う視点を明確にして)
- (3) PDCAサイクルによる研究実践の進捗状況の把握と改善
 - ⇒カリキュラム・マネジメントシートを活用し「授業改善」「学校評価・改善」「教育課程の評価・改善」の一体化を図る
 - (学期ごとの検証とスモールステップでの改善点の明確化と迅速な改善)
- (4) 読書活動の充実
 - ⇒日常的な取組(上記参照)に加えて, 図書紹介カードの作成・読書感想文コンクールを実施
- (5) 図書環境の整備・充実
 - ⇒「学校まるごと図書館構想」の具現化(地域・保護者と連携)
 - ⇒町図書館・ボランティアと連携した取組を実施(年間2回程度ー長期休業も活用)

研究構想図

【学校教育目標】

夢をはぐくみ 自ら考え学び 共に伸びる 八重東っ子の育成

【めざす子供像】

◆進んで自分から学び、みんなで伸びる子供

◆自分大好き、友だち・学校大好き、ふるさと 大好きな子供

◆体力・耐力・気力→自分を見つめ、目標めざして頑張る子供

【本校で身に付けさせたい資質・能力】

- ◆知識・理解 ◆課題発見・解決能力 ◆コミュニケーション能力
- ◆自ら取り組む力 ◆自他を理解する力 ◆ふるさとを愛する心

研究主題

本に親しみ 主体的に調べ 学ぶ 児童の育成

～読書活動と図書館機能を取り入れた授業づくりを通して～

<研究を通して「めざす子ども像」>

【本に親しむ】

◆目的に応じて、本や図書資料を選んで読む。(重点取組) ◆読書が好きで、進んで読書をする。

【主体的に調べ、学ぶ】

◆分かったことや自分の考えを、根拠を基に自分の言葉で表現する。(重点取組)

◆自ら課題を見つけ、進んで解決しようとする。 ◆課題解決に向け、友達と協働しようとする。

◆課題解決に必要な資料は何かを自ら考え、探したり見つけたりしようとする。

◆課題解決に必要な情報を、図書資料を活用して調べ、取捨選択して活用する。

図書館機能を活用した教育活動

多様な読書活動

- 朝読書(月・火・金)・家庭学習としての読書
- 八重東小学校読書百選・読書貯金
- 読み聞かせ(ボランティア等)
- 読書習慣の定着
- 委員会活動の充実
 - ・図書の紹介
 - ・読み聞かせ
 - ・子ども読書の日
 - ・多読、読書目標達成児童の表彰 等

図書館機能を活用した授業づくり

- 図書館機能を活用した単元・授業の工夫
- 課題発見・解決学習(他教科・日常生活と関連させる)の実践
- 「図書館年間計画」に基づく授業の実践
- 国語科の授業における並行読書
- 学び方のスキル向上
- 思考を助けるノート指導 等

読書環境の充実

- 意図的、計画的な図書の購入
- 学習・情報センターとして機能する図書室の整備
- 司書やPTA活動との連携
- 並行読書コーナーの設置 等
- 町内図書館との連携

学びの基盤 (授業規律・学び方の徹底・八重東型授業モデル)

共に高まろうとする人間関係 (学級)

図書環境の整備

《授業づくり・授業研究に係る取組（資料）》

【単元構想シート】作成者 【

小学校 第 学

教科名等

単元（題材）名

「本質的な問い」（カリキュラムを構成する質問の三つの階層）の考え方を参考に、「単元を貫く問い」を立てて、単元計画・個別の問いを考える。

① 本質的問い（何度も問い直され答えが混信され続ける「問い」）

② 単元を貫く問い（単元を通して考え深めていく「問い」）

③ 個別の問い（単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能

単元計画の構想を立て

「学びの変革」をめざした授業参観シート(八重東小)

＜目指す子供の姿と授業での見取り＞

学校で育成を目指す資質・能力	
日時・学年・学級〔児童数〕	月 日 () 校時 [名]
教科等・単元(題材名)	主語は「児童は、」。教師がどのように指導したかではなく、学習者基点で、児童がどのような学びの姿になったかで授業を評価する。
授業者	
参観者	

【授業評価表】

	目指す児童の姿	本時における児童の姿	評価とコメント A: 充分満足できる B: おおむね満足できる C: 努力を要する
1	【教科等の本質】 児童は、教科等固有の「見方・考え方」を働かせながら、深く思考している。	授業参観者は、校内研修開始時までには評価をしておく。	[]
2	【意欲の喚起・学習の見通し】 児童は、知的好奇心をもって授業に参加している。		[]
3	【自分の考えの表現】 児童は、課題に対して自分の考えをもち、論理的に表現している。		[]
4	【他者との考えの交流】 児童は、友達との話し合いや協働を通して、自分の考えを深めている。		[]
5	【学習の振り返り】 児童は、振り返りにより、本時の学び・身に付けた学び方を認識している。		[]
6	【【図書・デジタル機器の活用など個に応じた学び】 児童は、図書・デジタル機器等を活用し、学びの幅を広げている。		[]
7	【主体的に学ぶ態度の育成】 児童は、学習評価により、自らの学習を深め広げたり、学習の仕方を改善したりしている。		[]

【授業観察記録】

授業者の今後の授業改善につながるよう、主な学習活動の場面について、おおよその「時刻」、児童生徒の反応、具体的な姿、それに対する気づきや助言の関連が、分かるように横に並べて記述しておく。

	時刻	■主な学習活動(発問, 学習内容等を含む) □児童生徒の反応, 具体的な姿	○児童生徒の姿に基づいた参観者の 気づきや助言
記入例	11:30 11:35	■..... ■..... □..... ~~さんに...という姿がみられた。	○.....
導入			
展開			
まとめ ふり返り			

本時で児童生徒に付けようとしている力が付いているかどうか、

【本時のねらいの達成状況について】

授業参観・研修を通して学んだことを踏まえ、自分がどのような授業改善をしていくかを具体的を書いて発表(宣言)する。

----- 切り取り -----

自分化宣言 (授業参観・研修を通して「自分が授業改善を図っていくこと」)